

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の知的好奇心を喚起し、思考力・判断力・表現力を高め、希望進路を実現する教育課程編成や組織的な授業研究・実践に取り組む。 ②学校行事や生徒会活動等における生徒の主体的な取組の促進を図る。	①教育環境の変動に柔軟に対応できるよう教育課程の効果的展開の工夫にあたり、同時に求められる新たな学力の育成に向けた研究・修養を推進する。 ②学校行事を通して、主体性や豊かな人間性の涵養を図る。	①-1 ICT利活用など環境状況に対応した学習指導にあたる。 ①-2 大きくキャリア教育の視点も含め、本校生徒に最適化した授業実践にあたる。 ②学校行事等の運営を通じて生徒の自主性や主体性を育む。	①-1 ICT利活用など環境状況に対応した学習指導が展開したか。 ①-2 キャリア教育も含めた最適化授業が実践されたか。 ②学校行事等で主体的に計画立案や問題解決をする生徒の割合が増加したか。	①-1 休校・オンライン授業に限らず平素の授業でのICT利活用の学習指導を進めた。 ①-2 生徒による授業評価の他、実力テストの検証等も含め最適化に向けた授業改善に取り組んだ。 ②新型コロナウイルス感染症対策(形態変更や規模縮小)を生徒が主体的に熟考し学校行事を実施した。	①-1 一人一台PCの有効活用に向けた研究・研修が求められる。 ①-2 教科内での研究・修養に改善の余地が大きい。教科会の有効活用に力点を置く必要がある。 ②昨年同様に内容を削って行事を実施したので通常に戻す時の引継ぎが重要課題である。	①一人一台PCによる効果的な授業展開について研究を進めることを期待する。 確かな学力は課題を見つける、主体的に係わり行動するところまでが学力です。是非生徒の皆さんが主体的に社会に係わるような指導をお願いする。 ②コロナ禍で様々な制約の中、内容を検討し、安全面の配慮を施し、生徒主体の学校行事を実施したことは大変評価できる。	① ICT利活用は、コロナ感染状況による休業等においてオンラインで授業を行い、生徒の学習が停滞しないよう工夫し取り組んだ。令和4年度の入学生より、一人一台端末による授業が行われるが、各教科による活用方法の具体を整理する必要がある。 ②コロナ禍で、できる限り学校行事を削減しないよう、様々な感染対策を行い、生徒主体の行事を実施することができた。	①令和4年度入学生の一人一台端末導入にあたり、各教科での効果的な活用方法を検証し、校内での共有を進める。教科会の時間を設定し、各教科での課題を整理する。 ②生徒主体の学校行事の実施に向けて、県内や校内の感染状況を的確に検証し、感染リスクをできる限り最小限にするとともに、生徒や保護者へ、学校の取り組みを丁寧に説明し理解を求める。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①多様な生徒の個に応じた支援体制の充実を図る。 ②個性を重んじるとともに、他者への共感力と協働的な行動を尊ぶ姿勢を育成する。	①生徒を取り巻く変化に対応すべく、各種連携も含め、支援体制充実のための職員の資質向上を図る。 ②生徒の共感力の向上を図る。	①SCやSSWの有効活用により実践的な研修・情報共有を進める。 ②-1 いじめや人権問題などの生徒向け講演会の実施および事後検証にあたる。 ②-2 各部活動の目標を明確にし、退部率を減少させる。	①教員の資質向上および生徒情報の共有化が図れたか。 ②-1 生徒の内面や行動に変化が見られたか。 ②-2 退部率が減少したか。	①スクールカウンセラーによる人権研修を実施した。 ②-1 毎学期ごとにいじめアンケートを実施し、生徒対応を行った。 ②-2 コロナ禍で感染対策を徹底しながらの部活動の方針や計画を保護者に周知し、安心して部活動に参加できる共通認識を持たせた。その結果昨年に比べて退部率が減少した。	①マスク着用や三密を避ける生活のため、コミュニケーションをとれない生徒が多く、自己肯定感を育む内容の人権研修を活用する機会が少なかったが、今後は支援を要する生徒の早期対応と支援に活用していく。 ②-1 アンケート結果を検証しいじめの早期発見に努める。 ②-2 保護者会など直接会う機会が少ないため顧問との信頼関係を作りにくかった。	①課題を抱えている生徒に対して、きめ細やかな支援を行っている。必要により外部機関等との連携も重要である。 引き続き支援体制の充実に期待する。 傷つきやすい生徒が増えているので、家庭環境まで踏み込んで支援が必要なケースもあると考える。 ②各種大会で上位入賞もあり、学業との両立ができています。	①支援を必要としている生徒に対して、教育相談コーディネータを中心としたケース会議を開催し支援に努めた。また、外部機関と連携した支援も行った。ケース会議で話し合われた内容の情報共有の方法に課題を残した。 ②-1 いじめアンケートを実施し、状況把握に努め、いじめの撲滅を図ったことにより、大きないじめ問題は起こらなかった。 ②-2 昨年度に引き続き、退部率の減少がみられた。	①ケース会議での情報について、できる限り速やかに共有できるシステムを構築する。 ②いじめアンケートや面談以外に生徒の情報を把握できるシステムや、いじめ問題が生徒の心に響く広報を検討する。各部活動の活動状況を保護者へ説明し理解してもらえよう、定期的に保護者会等を開催することで顧問との信頼関係を構築する。
3	進路指導・支援	・生徒が自らの資質・能力の向上を自覚できる進路指導を実践し、生徒の「挑戦」を支援する。	①生徒の希望進路を実現するよう組織的取組の推進を図る。 ②外部機関等の活用や教科指導との連関を軸に生徒自身の目標設定および学力の伸長に繋げる。	①キャリア教育プログラムをもとに学年段階に応じた進路指導を充実させる。 ②外部機関の結果分析等と教科指導との連関性を高め、進路実現を支援する。	①キャリア教育プログラムをもとにした教育活動の実証データが上がったか。 ②外部機関の結果分析等と教科指導との連関性が高まったか。	①コロナ禍であったが、概ねプログラムを実施することができた。 ②外部機関の結果分析会を学年ごとに実施した。また、共通テストや実力テストのデータ分析一覧を作成し、教科指導に役立てた。	①新カリキュラムに伴い、新1年からのキャリア教育を改めて検討し、より充実させる。 ②外部機関の結果分析に加えて、実力テスト等の前後指導をより一層推進する。	①引き続き支援体制の充実に期待する。 ②新たな進路先が増えると思う。 奨学金の内容が保護者にも的確に伝わるとよかった。	①生徒の希望進路実現に向け、本校のキャリア教育プログラムを実践し、生徒への支援を図った。 ②外部機関の結果分析等を職員で共有し、個々の生徒への支援に活用できた。	①②過去の個人データ等を比較活用し、個々の進路実現に向けた情報を提供する。 ②外部機関の情報を収集し、情報の共有を図る。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・地域に関われ、地域に貢献する学校づくりを推進する	①新たな地域貢献の取組についての研究・実践にあたる。 ②地域へ学校の適切な情報発信を行う。	①地域交流・協働にオンラインでの交流等を検討・実施する。 ②地域や他校種、保護者との連携を行い、ホームページや学校説明会の充実を図る。	①地域交流・協働のオンラインの交流等の企画を実践できたか。 ②ホームページや学校説明会を通じて、本校の魅力をも十分に発信できたか。	①コロナ禍に対応するため、オンラインで本校の情報を取得できる環境を整えた。 ②12月に実施した学校見学会の参加者は約1560名。ホームページ上に各種の説明動画を掲載した。	①コロナ禍の長期化を見越し、直接来校しなくてもオンラインで学校関係のほとんどの情報を取得できるように、環境を整える。 ②年間3回の説明会の位置づけを明確にし、各回の内容に特色を持たせる。ホームページ上の学校の特色に関する情報を、更に充実させる。	①コロナ禍でなかなか地域との交流は難しいと思いますが、できることからお願いしたい。 鎌倉市のアフタースクール事業との協働が図れればと考えている。 ②学校の情報配信を適切に行っていると思う。	①コロナ禍の影響により、地域との様々な連携や交流ができない状況であったが、その状況下で、できる限りの交流を図った。 ②学校説明会では、ホームページ上に動画を掲載し説明会に来校されなくても、学校の情報を提供できるよう工夫した。 学校見学会は、多くの申し込みがあり、時間をこまめに設定することで、来校者が密にならないよう対応できた。	①コロナ禍で開催できなかった地域との連携事業を開催する。また、新たな取組を検討し地域に根付いた学校を目指す。 ②学校説明会など、来校しなくても本校の特色を理解でき、学校の様子が伝えられるようなホームページを検討する。
5	学校管理 学校運営	①信頼される学校づくりを進める。 ②生徒と触れ合う時間を多く作る。	①コミュニケーションを密にする環境を醸成し、事故不祥事の未然防止を徹底する。 ②業務改善を進め、効率的な学校運営に取り組む。	①事故防止会議や研修で、繰り返し意識の醸成を行う。 ②ICTの効果的な活用を研究し、会議運営等での業務効率を図る。	①事故防止の効果検証を裏付ける結果が出たか。 ②業務効率化が体感できたか。	①定期的に事故防止会議を実施した。特に、わいせつ事案については、映像を活用した研修を行い、事故防止の意識向上が図られた。 ②会議や卒業式などでICTを効果的に活用し、業務の効率化を図るとともに、保護者から信頼される学校づくりに努めた。	①気にかかることがあれば、お互いに声をかけることができる職場となるよう、日頃のコミュニケーションを重視した、環境を整備を行う。 ②更なるICT活用に関する研究が必要である	①コロナ禍対応で大変な一年だったと思います。先生方の負担が少しでも軽くなるとよいと思う。 教職員の方々の心身のケアにも努めていただきました。 ②困難な状況下、様々な工夫をして運営していることに感謝する。	①定期的に職場研修を実施したことにより、職員の事故防止の意識向上を図ることができた。 ②ICTを効果的に活用し、業務時間の効率化を図ったが、職員の多忙の解消には至らなかった。	①一般的な事故防止対策だけでなく、本校独自の教育環境を検証し、個々の場面を想定し事故防止につながるよう、事故防止会議で検討する。 ②働き方改革を念頭に置いた業務遂行となるよう、職員間の協働性を醸成する。